

読者の声

読者の皆様から寄せられた「水とともに 2021・夏号」へのご意見・ご感想を紹介します

「ダムカード」が配布されていることは知っていましたが、「水の恵みカード」や「ダム地質カード」のような配布物もあるなんて驚きました。「ダム地質カード」に関しては、内容が専門的すぎて逆に気になります(笑)。

(特集 集めて知ろう!水の恵み) (20代・男性)

北陸に住む私ではなかなか知り得ない関東圏の治水利水の歴史が詳しくわかり、勉強になりました。伊奈父子の歴史探訪へ出掛けてみようと思います。

(連載 江戸期の水の技術者 群像) (40代・男性)

「浜風」の説明に、納得。タイガース戦の楽しみが、一つ増えました。人に話したくて、仕方がありません。

(気象キャスターが解説!天気のみかた) (60代・男性)

身近に見沼地域があり生活に常に関わりがあります。利根川と荒川の2大水系を上手くコントロールしている、していこうとする技術には驚くばかりです。

(首都圏を支える武蔵水路) (60代・女性)

麵家西陣は、ダムカレーとラーメンがコラボした新感覚のお店。味にも興味はあるが、ダムをテーマにした異業種の取り組みを今後もぜひ記事にとりあげてもらいたい。

(水機構ニュース) (40代・男性)

紙面がとても見やすく、また江戸時代の歴史的な内容から現在の旬なダムカレーまでと、ふり幅の大きな内容も楽しめました。地質技術者なる業務があることも興味深かったです。

(50代・女性)

本号の主なご紹介施設

栃木県: 思川開発建設所
水機構ニュース

P20

表紙 P4
千葉県(右岸)
茨城県(左岸)
: 利根川河口堰
特集
利根川河口堰五十周年
~今昔物語~

編集後記

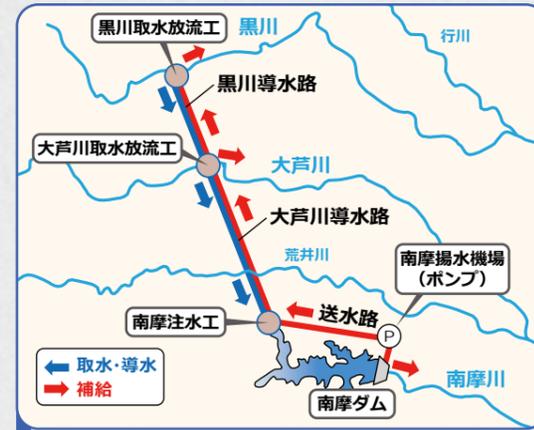
長く裏表紙を飾ってきた「水とのふれあいフォトコンテスト」の入賞作品ですが、「もっと大きく見たい」「いつも癒されている」といった声を以前からいただいていたことから、今号では見開きで大きく掲載してみました!グラプリのアザラシの表情、癒されますね…。さて、特集でご紹介した利根川河口堰は今年で50周年を迎えましたが、機構施設は今年周年ラッシュ。次号でも周年を迎えた施設をご紹介する予定ですので楽しみに。

水機構ニュース

「水機構ニュース」では、水資源機構からの最新ニュースを中心に、水にまつわるさまざまな情報をお届けします。

利根川水系

● 思川開発建設所(栃木県鹿沼市)
ダム博士ちゃん、ようこそ思川開発へ!



思川開発事業の概要

思川の支川南摩川に建設する南摩ダムで洪水調節を行うとともに、思川の支川の黒川、大芦川と南摩ダムを導水路で結び、水を融通しつつ効率的に水資源開発を行う事業です。

ダムの建設現場でしか見られない、ド迫力の重機の前で記念にパチリ☆特別に運転席にも乗ってもらいました!



46トンドンプトラック前にて



職員の説明に真剣に聞き入る央果君



ダムサイト展望広場から、ダム建設現場の壮大な景色を一望します



来訪後、央果君からお手紙をいただきました!

ふだんは入れない重機の運転席や、掘削途中のトンネルなど、とても興味深い内容で、ダムに関する知識をたくさん学ばせていただくことができました。

今回ダムが建設されているところを見て、ダムの工事の過程ではいろいろな作業があり、たくさんの方がひとつひとつの工程を進めていくことが分かり、ぼくがダムを愛でることができるのもその人達の努力があってこそできるものなんだと感じました。(一部抜粋)



TBM運転席に座る央果君

南摩ダムに貯めた水を黒川、大芦川に送る「送水路」の掘削工事で使用するTBM(トンネルボーリングマシン)